



令和7年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 6 号
令和7年9月26日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

記録的な暑さの中で

校 長 金子 慎一郎

今年の夏は猛暑が続き様々な方面に影響が出ていました。例えば、本校の近くにある見沼グリーンセンターでは、多くの作物を栽培しています。その中の一つに里芋があり、見沼田んぼの湿度のある土壌が里芋の栽培に適していることから市内で多く栽培されている作物のひとつとなっています。ところが、今年は暑さと雨が降らなかった影響でほとんど出荷ができないそうです。本校でも、給食に食材として提供していただきましたが、今年は提供できないといった回答が届いています。農家の方にお話を聞くと、暑さと水不足で葉が枯れてしまったそうです。里芋は地下で肥大した茎の部分食用とし、親芋を中心に子芋、孫芋が次々と形成されて育ちます。今年は、子芋や孫芋が出来ず出荷ができないそうです。地球温暖化の影響や気象条件によって、今まで収穫できた特産物が変わってしまう現象がおこっています。本校で学習している「食育」にも関係する内容ですので、他人事ではなく、自分事として対策を考えてみてください。

さて、9月24日から市新人体育大会が始まっています。これに先立ち、22日に壮行会が行われました。各部長が大会に向けての意気込みを元気に述べ、そのたくましさに感動しました。その後、選手宣誓がありました。「我々選手一同は、日頃の練習の成果を発揮し、試合に出場する人、応援する人、全ての人が心をつにし、目標に向かって全力で戦います。そして、たくさん練習できる環境を作ってくださる顧問の先生、我々の部活動を全力で応援してくれる家族、両親に感謝し、これまでの練習の成果をぶつけ、最後まであきらめずに戦い抜くことを誓います。」（井口 結翔 男子バスケットボール部部长）

私は壮行会で激励の言葉として、世界陸上の男子110mハードル5位の村竹ラシッド選手について紹介しました。村竹選手が「パリ五輪が終わってからの1年間、本気でメダルを取ろうと必死に練習してきたので、何が足りなかったんだろう」と涙した姿から、本気で頑張っていた人の悔しさが伝わってきた話を通して、目標に向けて本気で取り組む大切さと、勝負にかけるモチベーションを持ち続けることが大切だと話しました。そして、試合では「練習は本番のように、本番は練習のように」活躍してほしいです。生徒の皆さんに対して、今ある力を出し切ることができるように応援したいと思います。

新人戦に向けて中心となる生徒が代わりし、新チームになっても「支えてくれた全ての方への感謝の気持ちを忘れず戦う」という土呂中学校のよき伝統を継承して頑張りますので、保護者の皆様も土呂中生の活躍を応援くださいますようお願いいたします。

話は変わりまして、今年も地域の皆様方からボランティア活動の募集が届いております。土呂中学校では地域と共に活動する機会としてボランティア活動を取り入れております。夏休み中には「土呂町祭礼運営委員会」主催の「みこしの担ぎ手ボランティア」に1名の生徒が参加したり、「東大宮サマーフェスティバル実行委員会」主催の「東大宮サマーフェスティバル運営ボランティア」に18名の生徒が参加したりしました。また、「キャンドル作り」ボランティアに参加した14名の生徒は、芝浦工業大学ボランティアサークルの方から廃油からキャンドルを作る作り方を教えてもらい、それを小さい子や小学生に教えてあげることができ充実した時間を過ごせたと感想が寄せられました。この後も地域のお祭りや清掃活動、避難所運営訓練等の募集が行われておりますので、参加をして得られた知識や技能を今後の生活に活かし地域の方々と協力をしてほしいと思います。最後に学校では、合唱コンクールに向けて練習が始まりました。昼休み、帰りの会后、歌声が校舎内に響いています。響く歌声は今はまだ未完成ですが、本番では聴く人の心を打つ合唱を披露できることと思います。ぜひご来校くださるようお願い申し上げます。